

專門基礎分野

専門基礎分野

| | | | |
|-------|----------|---------|--------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 解剖学 |
| 単位・時間 | 2単位 60時間 | 対象学年・時期 | 1年（前期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 外部講師 | | |
| 実務経験 | — | | |

設定理由

解剖学は疾患や看護を学ぶ基礎である。医療が高度化する現在、正確な知識に基づくアセスメントが重要になる。人体を構成している骨や筋、臓器などの名称、位置、つくりを学び、看護の対象であるヒトの体を理解し、看護に活かす能力を養う。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|---------------|-----|---|------|------|
| 1 身体の構造を理解する。 | 25 | 1 生命・遺伝子・細胞 2 人体の外観 3 人体発生学総論 4 総皮（外皮） 5 骨格系 6 筋系 7 循環器系 8 消化器系 | 講 義 | 試 験 |
| | 31 | 9 呼吸器系 10 泌尿器系 11 男性生殖器 12 女性生殖器 13 内分泌器官 14 中枢神経系 15 末梢神経系 16 視覚器 17 聴覚器 | 講 義 | 試 験 |
| | 4 | 18 解剖実習 | 講 義 | |

テキスト 系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院
入門人体解剖学 南江堂

専門基礎分野

| | | | |
|-------|------------|---------|---------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 生理学 |
| 単位・時間 | 2 単位 60 時間 | 対象学年・時期 | 1 年（前期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 外部講師 | | |
| 実務経験 | — | | |

設定理由

生理学は疾患や看護を学ぶ基礎となる。医療が高度化する現在、正確な知識に基づくアセスメントが重要になる。人体を構成する様々な臓器・器官の働きと各器官の連動を理解し、看護の対象であるヒトの体を理解し、看護に活かす能力を養う。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|------------------|-----|---|------|------|
| 人体各部の機能について理解する。 | 18 | 1 生理学総論 1) 生理学の概要 2) 細胞、組織、器官の構成 2 体液、血液の概要 1) 細胞膜の透過性と能動輸送、興奮 2) 体液の概念（細胞内外の環境、体液量、組成および移動） 3 血液 1) 赤血球、白血球、血小板、血漿のはたらき 2) 止血と血液凝固 3) 血液型 4 神経系・一般生理及び概論 1) 興奮性細胞（神経、筋、受容細胞） 2) 刺激と反応 3) 骨格筋の収縮機序 4) シナプス伝達、終板電位 5) 神経系の概要（脊髄と脳） 5 呼吸 1) 呼吸の概念 2) 呼吸器の構造と機能 3) 呼吸運動、換気力学、肺気量分画 4) ガス交換とガスの運搬 5) 呼吸の調整機構 6) 異常呼吸 | 講 義 | |

| | 18 | <p>6 循環</p> <p>1) 循環の概念 2) 心臓の構造と機能</p> <p>3) 心電図 4) 血管の構造と機能</p> <p>5) 循環力学</p> <p>6) 醜態力学、血圧、血流量、血流抵抗、微小循環、局所循環</p> <p>7) リンパの機能 8) 心臓・血管系の調節機構</p> | 講 義 | 試 験 |
|--|----|--|-----|-----|
| | | <p>7 細胞膜の物質移動</p> <p>1) 細胞膜の透過性と興奮、能動輸送</p> <p>2) 人の構造と機能 3) 濾過と再吸収機能</p> <p>8 排泄</p> <p>1) 排泄機構</p> <p>9 体液調節</p> <p>1) 尿の性状 2) 体液量と酸塩基平衡の調節</p> <p>10 消化・吸収</p> <p>1) 消化器系の構造と機能の概説</p> <p>2) 消化液とその分泌</p> <p>3) 消化管における消化・吸収</p> <p>4) 消化管の運動</p> <p>5) 排便</p> <p>11 栄養・代謝</p> <p>1) 肝の機能、代謝の概念</p> <p>2) 栄養素とエネルギー代謝</p> <p>12 体温調整</p> <p>1) 産熱と放熱節 2) 体温調節</p> | | |

| | | | | |
|--|----|---|-----|------|
| | 18 | <p>13 内分泌</p> <p>1) 体液性調節の概念</p> <p>2) 内分泌腺とホルモンの種類</p> <p>3) ホルモンによる生体調節</p> <p>4) 性の決定と生殖の機序</p> <p>14 生殖</p> <p>1) 性ホルモン 2) 生殖生理</p> <p>3) 受精と妊娠、分娩</p> <p>15 神経系</p> <p>1) 神経系の分類 2) 中枢神経系</p> <p>3) 末梢神経系 4) 自律神経系</p> <p>5) 脳波と睡眠、意識</p> <p>6) 本能と情動行動 7) 学習と記憶</p> <p>8) 運動機能と伝導路</p> <p>16 感覚</p> <p>1) 感覚の概念 2) 受容細胞と受容器</p> <p>3) 体性感覚、内臓感覚、特殊感覚 4) 痛覚</p> <p>5) 各種感覚の伝導路</p> | 講 義 | 試 験 |
| | 6 | 17 生理学実習 | 講 義 | レポート |

テキスト 系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院

専門基礎分野

| | | | |
|-------|----------|---------|--------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 生化学 |
| 単位・時間 | 1単位 30時間 | 対象学年・時期 | 1年（後期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 外部講師 | | |
| 実務経験 | — | | |

設定理由

生化学は疾患や看護を学ぶ基礎である。生体がどのような化合物で成り立っていて、それらの化合物がどのように作られ、壊されて恒常性が保たれているか学ぶ。そして看護の対象であるヒトの体を理解し看護に活かす能力を養う。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|--------------------|-----|---|------|------|
| 1 生体内での物質代謝について学ぶ。 | 9 | 1 生化学を学ぶための基礎知識 1) 生化学を学ぶにあたって 2) 科学の基礎知識 3) 細胞の構造と機能 2 糖 質 1) 糖質とは 2) 糖質の種類 3) 単糖の構造と性質 4) 二糖の構造と性質 5) 多糖の構造と性質 3 脂 質 1) 脂質とは 2) 脂質の種類 3) 脂質の役割 4) 脂質各論 (1) 脂肪酸 (2) 中性脂肪 (3) リン脂質 (4) 糖脂質 (5) コレステロール 5) リポタンパク質 4 タンパク質 1) タンパク質とは 2) アミノ酸 3) タンパク質の構造 4) タンパク質の分類 5 核 酸 1) 核酸とは 2) 塩基 3) ヌクレオシドとヌクレオチド 4) DNAとRNAの構造 6 水と無機質 1) 水とは 2) 水の出入り 3) 無機質とは | 講 義 | 試 験 |
| | 9 | 7 ホルモン 1) ホルモンとは 2) ホルモンの種類と作用機序 3) ホルモン各論 4) サイトカイン 8 代謝のあらまし | | |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | <p>1) 代謝とは 2) 消化・吸収された栄養素の体内での代謝</p> <p>9 酵 素</p> <p>1) 酵素に関する基礎知識 2) 酵素反応 3) 酵素反応の阻害 4) 酵素の分類 5) 酵素の応用</p> <p>10 ビタミンと補酵素</p> <p>1) ビタミンとは 2) ビタミンの種類と生理作用</p> <p>11 糖質代謝</p> <p>1) 糖質代謝のあらまし 2) グルコースの分類 3) 糖新生 4) ペントースリン酸回路 5) グリコーゲンの代謝 6) ガラクトース、フルクトース、マンノースの代謝</p> <p>12 脂質代謝</p> <p>1) 脂質の消化と吸収 2) 脂肪酸の分解 3) ケトン体の生成と利用 4) 脂肪酸の生合成 5) コレステロールの生合成と利用 6) エイコサノイドの生合成</p> | | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|---|--|-----|--|
| | 8 | <p>13 タンパク質代謝</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) タンパク質代謝のあらまし 2) タンパク質の消化と吸収 3) α-ケト酸を經由するアミノ酸の利用 4) アミノ酸からの各種含窒素化合物の合成 5) アミノ酸からの他のアミノ酸の合成 <p>14 核酸代謝</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 核酸の合成と分解 2) ヌクレオチドの合成 3) ヌクレオチドの分解 <p>15 ポルフィリン代謝</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ポルフィリンとは 2) ヘムの生合成 3) ヘムの分解 4) ビリルビンの代謝 <p>16 遺伝情報</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 遺伝情報とは 2) 複製 3) 転写 4) 翻訳 (タンパク質の合成) 5) 翻訳語のプロセッシングと細胞内移行 6) DNAの尊重と修復 | 講 義 | |
| | 4 | 17 生化学実習 | 講 義 | |

テキスト 系統看護学講座 人体の構造と機能〔2〕生化学 医学書院

専門基礎分野

| | | | |
|-------|---|---------|--------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 臨床栄養学 |
| 単位・時間 | 1単位 30時間 | 対象学年・時期 | 2年（前期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 法人講師 1) 2) | | |
| 実務経験 | 1) 栄養士として附属病院6年、他病院6年 2) 看護師として附属病院16年、他病院9年 | | |

設定理由

栄養ケアにおいては患者のすべてをアセスメント、支援していかなければならない。そのためには医療チーム全体で係わる必要がある。その中の看護の役割を理解する。自分自身の食生活を見直すことで人間にとっての「食べる」ことの意味を考える。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|--------------------------------|-----|--|------|------|
| 1 人間にとっての栄養の意義と栄養マネジメントが理解できる。 | 20 | 1 人間栄養学と看護 1) 栄養と栄養素 2) 栄養学の歴史 3) 食物栄養学から人間栄養学へ 4) 保健と栄養 5) 医療と栄養学 6) 食事療法の進歩と医療制度 7) 看護と栄養 2 栄養状態の評価・判定 1) 栄養状態の評価・判定の定義と目的 (1) 栄養状態の移行過程の評価・判定 (2) 適正な栄養ケア計画作成のための情報提供 (3) 再アセスメントによる効果の評価 (4) 成果（アウトカム）の予測 (5) 食品の栄養の質の評価 2) 栄養状態の評価・判定法 (1) 臨床診査 (2) 身体計測 (3) 臨床検査 (4) 食事調査 3 栄養素の種類とはたらき 1) 炭水化物 2) 脂質 3) タンパク質 4) ビタミン 5) ミネラル 4 エネルギー代謝 1) 食品のエネルギー (1) 三大栄養素のエネルギー (2) エネルギーの換算係数 2) 体内のエネルギー (1) エネルギーの出納 (2) エネルギー代謝 | 講 義 | 試 験 |

| | | | | |
|----|---|---|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> (3) 呼吸比 (R Q) 3) エネルギー代謝の測定 <ul style="list-style-type: none"> (1) 直接的測定法 (2) 間接的測定方法 (3) 二重標識水法 (D L W) (4) 時間調査法 (5) 加速度計法 (6) 歩行記録法 4) エネルギー消費 <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎代謝量 (BMR) (2) 安静時代謝量 (RMR) (3) 睡眠時代謝量 (4) 特異動的作用 (S D A) (5) 活動代謝量 (6) 生活活動強度 5 栄養ケア・マネジメント <ul style="list-style-type: none"> 1) 栄養ケア・マネジメントとは 2) 栄養スクリーニング 3) 栄養アセスメント 4) 栄養ケア計画 5) 栄養ケア計画の実施とチェック 6) モニタリング 7) 評価 6 健康づくりと食品・食事・食生活 <ul style="list-style-type: none"> 1) 人間の食事と食文化 2) 食品と食品群 3) 各種食品群の分類法 4) 食生活の変遷と栄養の問題点 5) 生活習慣病の予防 | | |
| 10 | 7 | <ul style="list-style-type: none"> N S T (栄養サポートチーム) の活動 <ul style="list-style-type: none"> 1) N S T の役割と現状 2) それぞれの専門的な役割と連携 | | |

専門基礎分野

| | | | |
|-------|-----------------|---------|---------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 食事と健康 |
| 単位・時間 | 1 単位 15 時間 | 対象学年・時期 | 2 年（後期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 法人講師 | | |
| 実務経験 | 栄養士として附属病院 36 年 | | |

設定理由

栄養食事療法とは治療の一環である。そのため栄養食事療法には制約がつく。しかし食事は本来楽しいものでなければならない。制約の中で、できるだけ患者にとっておいしく楽しい食事にし、栄養食事療法がより円滑に進み援助できるよう食事の基本と治療食について学ぶ。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|-------------------------|-----|--|------|------|
| 1 食事療法としての病人食の特徴を理解できる。 | 5 | 1 食生活と栄養食事療法 1) 人間の食生活 2) 食生活と栄養食事療法 3) 栄養食事療法と看護の役割 2 医療・福祉の場における栄養食事療法 1) 疾患と栄養 2) 主な栄養関連疾患と食事療法 3) チーム医療と栄養食事療法 4) 医療保険制度と栄養食事療法 5) 福祉、介護保険制度と栄養食事療法 | 講 義 | 試 験 |
| | 10 | 3 病人食の特徴と種類 1) 病人食の特徴 2) 病人食の種類 3) 病人食と食品選択 4 食事療法の実際 1) 肥満食、高脂血症食 2) 糖尿病食 3) 肝臓病食 4) 動脈硬化食 5) 腎臓病食 6) 妊産婦・小児の栄養食事療法 7) 高齢者の栄養と食事 | | |

テキスト 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院

専門基礎分野

| | | | |
|-------|------------|---------|---------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 臨床薬理学総論 |
| 単位・時間 | 1 単位 30 時間 | 対象学年・時期 | 1 年（後期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 外部講師 | | |
| 実務経験 | — | | |

設定理由

薬物が生体に作用して引き起こす種々の反応とその作用機序について学ぶ。薬物療法を実施するにあたっての必要な薬剤の基礎知識を学ぶ。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|-------------------------------------|-----|---|------|------|
| 1 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解する。 | 13 | 1 薬理学の概念 1) 薬理学とはなにか 2) 薬物療法の目的 3) 薬理作用と作用機序 4) 薬物動態（生体内運命）と薬効 5) 副作用と有害作用 6) 中毒 7) 薬物相互作用 8) 薬物療法に影響を与える因子 9) 薬物送達システム（DDS） 10) 新薬の開発（ヘルシンキ宣言と臨床試験） 11) 医薬品の安全な使用 12) 小児、妊婦、高齢者の薬物治療 13) 医薬品の管理 | 講 義 | 試 験 |
| | 3 | 14) 薬理学実習 | | |
| | 14 | 2 末梢神経系作用薬 1) 自律神経作用薬 2) 筋弛緩薬 3) 局所麻酔薬 3 中枢神経系作用薬 1) 麻酔 2) 疼痛 3) 不眠症 4) 神経症、気分障害、統合失調症 5) てんかん 6) パーキンソン病 7) 認知症、アルツハイマー病 8) その他 4 呼吸器系作用薬 1) 気管支喘息 2) 呼吸器感染症等による激しい咳、痰 3) 慢性呼吸不全 4) 睡眠時無呼吸症候群 5) びまん性汎細気管支炎 5 抗炎症薬 6 循環器系作用薬 | | |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | 1) 高血圧 2) 心臓作用薬 3) 腎臓作用薬 4) 血液・造血器作用薬 | | |
|--|--|--|--|--|

テキスト 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院

専門基礎分野

| | | | |
|-------|------------|---------|---------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 臨床薬理学各論 |
| 単位・時間 | 1 単位 15 時間 | 対象学年・時期 | 2 年（前期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 外部講師 | | |
| 実務経験 | — | | |

設定理由

薬物が生体に作用して引き起こす種々の反応とその作用機序について学ぶ。薬物療法を実施するにあたっての必要な薬剤の基礎知識を学ぶ。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|-------------------------------------|-----|---|------|------|
| 1 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解する。 | 7 | 1 消化器系作用薬 1) 胃炎、胃・十二指腸潰瘍 2) 食欲不振、消化不良 3) 嘔吐 4) 便秘・下痢 2 ホルモン系・生殖器系作用薬 1) ホルモン系作用薬 2) 生殖器系作用薬 | 講 義 | 試 験 |
| | 8 | 3 抗感染症薬 1) 抗感染症薬 2) 消毒薬 4 抗悪性腫瘍薬 5 漢方薬 | | |

テキスト 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院

専門基礎分野

| | | | |
|-------|----------|---------|--------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 微生物学 |
| 単位・時間 | 1単位 30時間 | 対象学年・時期 | 1年（前期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 外部講師 | | |
| 実務経験 | — | | |

設定理由

感染症の発生には微生物が関係する。感染や免疫の知識をもつことで感染予防、感染症発症時の看護に活かす。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|------------------------------------|-----|--|------|------|
| 1 病原微生物の特徴と生態に及ぼす影響や消毒・滅菌取扱法を理解する。 | 12 | 1 病原微生物学と院内感染 1) 感染と感染症 2) 病原微生物・常在菌叢 3) 結核・感染症サーベイランス 4) 化学療法と耐性菌 5) 院内感染 6) 消毒と滅菌 7) 感染性医療廃棄物 2 感染と免疫 1) 自己と非自己 2) ヒトの内部防御機構 3) 特異的防御機構の主役 4) 細胞性免疫 5) 体液性免疫 6) 能動免疫と受動免疫 7) アレルギー 8) サイトカイン 9) 感染に対する生体防御 10) 癌と免疫 11) 移植と免疫 12) 自己免疫病 13) 免疫不全 14) 免疫反応とその作用 | 講 義 | 試 験 |
| | 12 | 3 細胞学 1) 細胞学総論 2) 細胞学各論 4 ウイルス学 1) ウイルス学総論 2) ウイルス学各論 5 真菌学 1) 真菌学総論 2) 真菌学各論 6 寄生虫学 1) 寄生虫学総論 2) 寄生虫学各論 | 講 義 | 試 験 |
| | 6 | 7 微生物学実習 | 講 義 | |

テキスト 看護微生物学 医歯薬出版

専門基礎分野

| | | | |
|-------|-------------------------|---------|---------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 病理学 |
| 単位・時間 | 1 単位 15 時間 | 対象学年・時期 | 1 年（後期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 法人講師 | | |
| 実務経験 | 医師として附属病院 21 年、他病院 11 年 | | |

設定理由

疾病の原因や発生、形態と機能の変化の原理を理解することで、各障害別疾患の理解を深める。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|-----------------------------------|-----|--|------|------|
| 1 疾病の原因や発生病理、形態と機能及び代謝変化の原理を理解する。 | 5 | 1 病理学の概念 2 病因論 1) 内 因 2) 外 因 3) 医原病と公害病 | 講 義 | 試 験 |
| | 10 | 3 細胞・組織に生じる変化 1) 炎 症 2) 変 性 3) 壊 死 4) 循環障害 5) 萎 縮 6) 過形成 7) 腫 瘍 | | |

テキスト 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院

専門基礎分野

| | | | |
|-------|--|---------|---------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 治療論 I |
| 単位・時間 | 1 単位 30 時間 | 対象学年・時期 | 1 年（後期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 法人講師 1) 2) 3) 4) | | |
| 実務経験 | 1) 医師として附属病院 23 年、他病院 19 年 2) 医師として付属病院 11 年、他病院 24 年 3) 医師として附属病院 6 年、他病院 8 年 | | |

設定理由

呼吸機能・循環機能が障害されることで起きる人体の変化とその治療を理解し、看護に活かす。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|------------------------------|-----|--|------|------|
| 1 呼吸機能障害をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 15 | 1 呼吸機能障害の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 肺癌 (2) 肺炎 (3) 気胸 (4) 肺結核 (5) 肺気腫 (6) 肺血栓塞栓症 | 講 義 | 試 験 |
| 1 循環機能障害をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 15 | 1 循環機能障害の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 心筋梗塞 (2) 狭心症 (3) 弁膜症 (4) 心不全 (5) 慢性閉塞性動脈硬化症 | 講 義 | 試 験 |

テキスト 系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院
系統看護学講座 成人看護学〔3〕循環器 医学書院

専門基礎分野

| | | | |
|-------|--|---------|--------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 治療論Ⅱ |
| 単位・時間 | 1単位 30時間 | 対象学年・時期 | 1年（後期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 法人講師 1) 2) 3) 4) 5) | | |
| 実務経験 | 1) 医師として附属病院 7年、他病院 14年 2) 医師として附属病院 2年、他病院 19年 3) 医師として附属病院 12年、他病院 18年 4) 医師として附属病院 9年、他病院 7年 5) 医師として附属病院 3年、他病院 3年 | | |

設定理由

内部環境調整機能・性生殖機能が障害されることで起きる人体の変化とその治療を理解し、看護に活かす。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|---------------------------------------|-----|---|------|------|
| 1 内部環境調整障害（腎臓）をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 10 | 1 内部環境調整機能障害（腎臓）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 腎不全 (2) 全身性疾患による腎障害 (3) ネフローゼ症候群 | 講 義 | 試 験 |
| 1 栄養・代謝障害（代謝）をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 8 | 1 栄養・代謝障害（代謝）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 糖尿病 (2) 高脂血症 (3) 肥満とメタボリックシンドローム (4) 尿酸代謝障害 | 講 義 | 試 験 |
| 1 内部環境調整障害（内分泌）をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 6 | 1 内部環境調整機能障害（内分泌）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 尿崩症 (2) 甲状腺機能亢進症 (3) 甲状腺機能低下症 (4) クッシング症候群 (5) アジソン病 (6) 褐色細胞腫 (7) 原発性アルドステロン症 | 講 義 | 試 験 |
| 1 性・生殖機能障害（女性生殖器）をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 6 | 1 性・生殖機能障害（女性生殖器）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 子宮筋腫 (2) 卵巣腫瘍 (3) 子宮癌 (4) 子宮内膜症 (5) 月経異常 (6) 更年期障害 (7) 性感染症 | 講 義 | 試 験 |

テキスト 系統看護学講座 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院

専門基礎分野

| | | | |
|-------|---|---------|--------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 治療論Ⅲ |
| 単位・時間 | 1単位 30時間 | 対象学年・時期 | 2年（全期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 法人講師 1) 2) 3) 4) 5) 6) 外部講師 7) | | |
| 実務経験 | 1) 医師として附属病院 40年、他病院 7年 2) 医師として附属病院 6年、他病院 4年 3) 医師として附属病院 22年、他病院 10年 4) 医師として附属病院 16年、他病院 15年 5) 医師として附属病院 5年、他病院 15年 6) 医師として附属病院 3年、他病院 7年 7) 医師として他病院 18年 | | |

設定理由

栄養代謝・感覚機能が障害されることで起きる人体の変化とその治療を理解し、看護に活かす。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|-------------------------------------|-----|---|------|------|
| 1 内部環境調整障害（泌尿器）をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 4 | 1 内部環境調整機能障害（泌尿器）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 水腎症 (2) 神経因性膀胱 (3) 尿失禁 (4) 前立腺肥大症 (5) 膀胱腫瘍 (6) 前立腺癌 (7) 腎細胞癌 (8) 尿路感染 (9) 尿路結石 (10) 男性不妊症 | 講 義 | 試 験 |
| 1 栄養・代謝障害（消化器）をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 14 | 1 栄養・代謝障害（消化器） 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 腫瘍（食道・胃・大腸・肝・胆・膵） (2) 炎症（胃・肝・胆・膵・大腸） (3) イレウス (4) 肝硬変 | 講 義 | 試 験 |
| 1 感覚機能障害をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 4 | 1 感覚機能障害（眼・耳鼻咽喉・歯口腔・皮膚）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 【眼】 (1) 白内障 (2) 緑内障 (3) 網膜剥離 (4) 網膜症 | 講 義 | 試 験 |

| | | | | |
|--|---|--|-----|-----|
| | 6 | 【耳鼻咽喉】 (1) 耳管狭窄症 (2) 慢性中耳炎 (3) メニエル病 (4) 鼻出血 (5) 慢性副鼻腔炎 (6) 咽頭癌 (7) 喉頭癌 【歯口腔】 (1) う歯 (2) 歯肉炎 (3) 口腔癌 (4) 顎関節症 | 講 義 | 試 験 |
| | 2 | 【皮膚】 (1) 熱傷 (2) 湿疹・皮膚炎 (3) アトピー性皮膚炎 (4) 蕁麻疹 (5) 上皮癌 (6) 白癬 (7) 褥瘡 | 講 義 | |

テキスト 系統看護学講座 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学 [12] 皮膚 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学 [13] 眼 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学 [15] 歯・口腔 医学書院

専門基礎分野

| | | | |
|-------|---|---------|--------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 治療論IV |
| 単位・時間 | 1単位 30時間 | 対象学年・時期 | 2年（全期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 法人講師 1) 2) 3) 4) 5) | | |
| 実務経験 | 1) 医師として附属病院 15年、他病院 26年 2) 看護師として附属病院 15年 3) 医師として附属病院 15年、他病院 26年 4) 医師として附属病院 26年、他病院 9年 5) 医師として附属病院 15年、他病院 7年 | | |

設定理由

手術療法の基礎を学び、各疾患の術前・術後管理を理解することで周手術期看護に活かす。
 運動機能が障害されることで起きる人体の変化とその治療を理解し、看護に活かす。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|--|-----|--|------|------|
| 1 手術療法の基礎を学び外科的治療を受ける患者の身体的アセスメントができる。 | 6 | 1 手術療法の基礎（総論） 1) 外科看護の基礎 （外科的診断法・手術侵襲と生体反応・腫瘍・炎症外傷・輸液と栄養管理・移植） 2) 外科的治療の基礎 （手術後疼痛と生体へ及ぼす影響・鎮痛法の利点と欠点など） 3) 術後合併症とその予防 2 麻酔法 1) 麻酔法 (1) 全身麻酔・局所麻酔など | 講 義 | 試 験 |
| | 6 | 2) 救急看護 (1) 救急処置法の原則 (2) 気道確保 (3) 人工呼吸 (4) 心臓マッサージ (5) 静脈確保・薬物投与など | 講 義 | |
| | 8 | 3 主な外科的治療（各論） 1) 甲状腺・副甲状腺疾患 甲状腺機能亢進症 2) 肺・気管支の疾患 肺癌・自然気胸 3) 乳腺の疾患 乳 癌 4) 食道の疾患 食道癌 | 講 義 | 試 験 |

| | | | | |
|------------------------------|---|---|-----|-----|
| | | 5) 胃・十二指腸の疾患 胃 癌 6) 腸・腹膜の疾患 大腸癌・急性腹膜炎・急性腹症 7) 肝臓・胆道系の疾患 胆石症 8) 膵臓の疾患 膵臓癌 9) ヘルニア 外鼠径ヘルニア | | |
| | 4 | 10) 心臓血管外科の疾患 | 講 義 | |
| 1 運動機能障害をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 6 | 1 運動機能障害の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 骨折 (2) 骨粗鬆症 (3) 骨腫瘍 (4) 脊髄損傷 (5) 椎間板ヘルニア (6) 関節リウマチ | 講 義 | 試 験 |

テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
系統看護学講座 成人看護学〔10〕運動器 医学書院

専門基礎分野

| | | | |
|-------|--|---------|--------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 治療論V |
| 単位・時間 | 1単位 30時間 | 対象学年・時期 | 2年（全期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 法人講師 1) 2) 3) 4) | | |
| 実務経験 | 1) 医師として附属病院 11年、他病院 24年 2) 医師として附属病院 23年、他病院 19年 3) 医師として附属病院 2年、他病院 9年 4) 医師として附属病院 19年、他病院 12年 | | |

設定理由

生体防御機能・脳神経が障害されることで起きる人体の変化とその治療を理解し、看護に活かす。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|--|-----|--|------|------|
| 1 生体防御機能障害（血液・造血器）をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 6 | 1 生体防御機能障害（血液・造血器）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 貧血 (2) 白血病 (3) 悪性リンパ腫 (4) 血友病 (5) 多発性骨髄腫 (6) D I C | 講 義 | 試 験 |
| 1 生体防御機能障害（免疫）をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 4 | 1 生体防御機能障害（免疫）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 関節リウマチ (2) 皮膚筋炎・多発性筋炎 (3) 全身性エリテマトーデス | 講 義 | 試 験 |
| 1 生体防御機能障害（感染症）をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 4 | 1 生体防御機能障害（感染症）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 菌血症・敗血症 (2) H I V (3) 輸入感染症 | 講 義 | |
| 1 脳神経障害をもつ患者の身体的アセスメントができる。 | 10 | 1 脳神経障害(外科)の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 脳梗塞 (2) 脳出血 (3) くも膜下出血 (4) 脳動脈瘤 (5) 脳腫瘍 (6) 高次脳機能障害 | 講 義 | 試 験 |
| | 6 | 2 脳神経障害(内科)の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) パーキンソン病 (2) 脊髄小脳変性症 (3) 筋萎縮性側索硬化症 | 講 義 | 試 験 |

系統看護学講座 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症 医学書院
系統看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院

専門基礎分野

| | | 科目別 | 時間数 | 単位 | 講師名 |
|------|-------|-----------------------|-----|-------------|------|
| 治療論Ⅰ | 1年生後期 | 呼吸機能障害 | 15 | 1単位 (30) | 法人講師 |
| | | 循環機能障害 | 15 | | 法人講師 |
| 治療論Ⅱ | 1年生後期 | 内部環境調整機能障害（腎臓） | 10 | 1単位 (30) | 法人講師 |
| | | 栄養・代謝機能障害（代謝） | 8 | | 法人講師 |
| | | 内部環境調整機能障害（内分泌） | 6 | | 法人講師 |
| | | 性・生殖機能障害（女性生殖器） | 6 | | 法人講師 |
| 治療論Ⅲ | 2年生全期 | 内部環境調整機能障害（泌尿器・男性生殖器） | 4 | 1単位 (30) | 法人講師 |
| | | 栄養・代謝機能障害（消化器） | 14 | | 法人講師 |
| | | 感覚機能障害（眼） | 4 | | 法人講師 |
| | | 感覚機能障害（耳鼻咽喉） | 6 | | 法人講師 |
| | | 感覚機能障害（皮膚） | 2 | | 法人講師 |
| 治療論Ⅳ | 2年生全期 | 手術療法（総論） | 6 | 1単位 (30) | 法人講師 |
| | | 救急看護 | 6 | | 法人講師 |
| | | 外科的治療（各論） | 8 | | 法人講師 |
| | | 外科的治療（心臓血管外科） | 4 | | 法人講師 |
| | | 運動機能障害 | 6 | | 法人講師 |
| 治療論Ⅴ | 2年生全期 | 生体防御機能障害（血液・造血器） | 6 | 1単位 (30) | 法人講師 |
| | | 生体防御機能障害（免疫） | 4 | | 法人講師 |
| | | 生体防御機能障害（感染症） | 4 | | 法人講師 |
| | | 脳神経障害（外科） | 10 | | 法人講師 |
| | | 脳神経障害（内科） | 6 | | 法人講師 |

専門基礎分野

| | | | |
|-------|----------|---------|--------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 公衆衛生学 |
| 単位・時間 | 1単位 30時間 | 対象学年・時期 | 2年（前期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 外部講師 | | |
| 実務経験 | — | | |

設定理由

健康に影響を与える要因に対して行われる集団への組織的な衛生活動を学び、健康を保持・増進するために自分がどうかかわれるかを考える。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|--|-----|---|------|------|
| 1 社会における組織的な保健活動を学び総合保健医療の中における看護の役割を理解する。 | 8 | 1 公衆衛生の理解 1) 健康と公衆衛生 2) 公衆衛生のあゆみ 3) 公衆衛生の学術基盤 4) 公衆衛生の地域活動 5) 国際社会の公衆衛生 2 人口と公衆衛生 1) 人口の動向と公衆衛生 2) 人口の動向把握に必要な指標 3) 人口の動向と公衆衛生 3 環境と公衆衛生 1) 人間と生活環境 2) 健康問題と環境 3) 環境問題の動向と公衆衛生 4) 居住環境についての生活衛生 | 講 義 | 試 験 |
| | 10 | 4 食と公衆衛生 1) 健康づくりと食 2) 健康の維持と食品保健 3) 食品がもたらす健康障害 5 国民の健康と保健統計 1) 保健統計の基本的な考え方 2) 健康指標 3) 疾病統計 4) 公衆衛生における社会資源 5) 保健医療統計情報システムの発展 6 疾病の疫学と予防 1) 疾病の成立と予防 2) 疫学調査 | | |

| | | | | |
|--|----|---|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> 3) 感染性疾患の疫学と予防 4) 非感染性疾患の疫学と予防 | | |
| | 12 | <ul style="list-style-type: none"> 7 公衆衛生と健康教育 <ul style="list-style-type: none"> 1) 健康教育の基本的考え方 2) 公衆衛生における健康教育 3) 健康教育と保健活動 4) 健康教育のすすめ 8 公衆衛生活動の実際 <ul style="list-style-type: none"> 1) 地域活動の公衆衛生学的意義 2) 母子保健 3) 学校保健 4) 地域保健対策 5) 産業保健 6) 老人保健福祉 7) 精神保健福祉対策 8) 歯科保健対策 9) 在宅ケア・訪問看護 10) 難病、障害者に関する対策 9 保健行政 <ul style="list-style-type: none"> 1) 保健行政（衛生行政）の基本的考え方 2) 保健行政の歴史的発展 3) 中央保健行政 4) 地域保健行政と保健所 5) 公衆衛生と地域保健医療福祉計画 6) 公衆衛生と環境計画 10 公衆衛生における今日的課題と展望 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護をめぐる公衆衛生の動き 2) これからの保健・医療・福祉 | | |

テキスト 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生 医学書院

専門基礎分野

| | | | |
|-------|----------------|---------|--------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 看護関係法規 |
| 単位・時間 | 2単位 30時間 | 対象学年・時期 | 2年（後期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 専任教員 | | |
| 実務経験 | 看護師として附属病院 41年 | | |

設定理由

法の基礎知識ならびに保健医療福祉に係る法規を学び、看護師としての業務と責任を自覚する。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|---------------------------------|-----|---|------|------|
| 1 医療関係法規 全般の知識を学び法令の基本を理解する。 | 16 | 1 法の概念 1) 法の概念 2) 衛生法の意義 3) 衛生法の沿革 4) 衛生法の分類 5) 厚生行政のしくみ 2 看護法 1) 保健師助産師看護師法 (1) 目的 (2) 定義 (3) 保健師助産師看護師法構造と付属法令 (4) 免許 (5) 業務 (6) 試験 (7) 学校・養成所 (8) 医療過誤 (9) 沿革 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 | 講 義 | 試 験 |
| | 12 | 3 医師法・医療法 1) 医師法 2) 医療法 4 関係資格法 5 医療を支える法 6 保健衛生法 1) 母体保護法 2) 母子保健法 7 薬務法 8 社会保険法 | | |

| | | | | |
|--|---|--------------|--|--|
| | | 9 労働法と社会基盤整備 | | |
| | 2 | 10 裁判傍聴 | | |

テキスト 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令 医学書院

専門基礎分野

| | | | |
|-------|----------|---------|--------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 社会福祉論 |
| 単位・時間 | 2単位 30時間 | 対象学年・時期 | 3年（前期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 外部講師 | | |
| 実務経験 | — | | |

設定理由

社会福祉の理念や方法論を学び、諸制度および諸サービスに関する知識を学ぶ。そして、社会福祉活動が人間生活の維持・向上に必要な援助活動であることを学習する。また社会福祉と医療・保健連携を理解する。さらにその中での看護の役割を考える。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|---|-----|---|------|------|
| 1 社会福祉と医療、社会保障の関連について学び、対象に必要な社会資源の活用について理解できる。 | 10 | 1 社会保障制度と社会福祉 1) 社会保障制度 2) 社会福祉の法制度 2 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 1) 現代社会の変化 2) 社会保障・社会福祉の動向 | 講 義 | 試 験 |
| | 8 | 3 医療保障 1) 医療保障制度の沿革 2) 医療保障制度の構造と体系 3) 健康保険と国民健康保険 4) 老人保健制度 5) 保険診療のしくみ 6) 公費負担医療 7) 国民医療費 8) 医療制度改革 4 介護保障 1) 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2) 介護保険制度の概要 3) 介護保険制度の課題と展望 5 所得保障 1) 所得保障制度のしくみ 2) 年金保険制度 3) 社会手当 4) 労働保険制度 6 公的扶助 1) 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2) 生活保護制度のしくみ 3) 低所得対策 4) 近年の動向 | | |
| | 12 | 7 社会福祉の分野とサービス 1) 高齢者福祉 2) 障害者福祉 3) 児童家庭福祉 8 社会福祉実践と医療・看護 1) 社会福祉援助とは | | |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> 2) 個別援助技術（ケースワーク） 3) 集団援助技術（グループワーク） 4) 間接援助技術と関連援助技術 5) 社会福祉援助の検討課題 6) 連携の重要性 7) 社会福祉実践と医療・看護の連携 8) 連携の場面とその方法 9 社会福祉の歴史 <ul style="list-style-type: none"> 1) 福祉史の枠組み 2) 福祉史の3段階 3) 前近代の救済の諸相 4) 近代の救済の諸相 5) 現代社会への構造変化と生活支援 6) 戦後の社会福祉の再生 | | |
|--|--|--|--|--|

テキスト 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉 医学書院

専門基礎分野

| | | | |
|-------|--|---------|--------|
| 分野科目名 | 専門基礎分野 | 科目名 | 総合医療論 |
| 単位・時間 | 1単位 15時間 | 対象学年・時期 | 3年（前期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 法人講師 1) 2) 3) | | |
| 実務経験 | 1) 医師として附属病院 12年、他病院 23年 2) 医師として附属病院 15年、他病院 26年 3) 医師として附属病院 44年 | | |

設定理由

現代の社会では社会情勢や、人々のライフスタイルの変化に伴い健康に対するニーズも多様化してきている。生活者が健康な生活を確保するために医療が果たす役割と課題を学ぶことで、保健・医療福祉の中で看護の果たす役割を考える。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|---|-----|--|------|------|
| 1 医療の発展と役割、現在の課題を学び、医療がどのような社会的期待を担っているか学ぶ。 | 3 | 1 援助と共感 1) 看護の「こころ」－援助と共感 2) 専門職としての医師と看護師 3) 援助される者と援助する者－共感的な人間関係 4) 病める者の自律への援助 －パターンリズムについて考える 2 医療と看護の原点 1) いのちと健康 2) 病の体験 3) 癒しの行為と癒しの和 4) 医療的ケアと管理 3 医療の歩みと医療観の変遷 1) 現代医学の起源 －古代から近代へ 2) 20世紀の医療 3) わが国の医療がたどってきた道 4) 医療観のうつりかわり | 講 義 | 試 験 |
| | 4 | 4 私たちの生活と医療 1) もしも私たちが病気やけがをしたら 2) 私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政 3) 疾病の一次予防と生活習慣病の考え方 4) 高齢社会と世代間のきずな 5) 障害者のノーマライゼーションと新たな社会的きずな 6) こころの健康と精神医療 | | |

| | | | | |
|---|---|--|--|--|
| 2 | 5 | <p>技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 先端医療技術の成果と私たちの新たな課題 2) 産業社会の発展と人間の健康 | | |
| 2 | 6 | <p>成熟する社会と人々の意識変革</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療不信から「賢い患者」へ 2) インフォームド・コンセントと医療情報の開示 | | |
| | 7 | <p>医療を見つめなおす新しい視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) はじめに—「医」における「論理」と「倫理」そして「管理」 2) 医療人類学と受療行動の研究 3) 医療と倫理 4) 臨床疫学—臨床医の合理的判断 5) 医療の管理と医療の評価 | | |
| 4 | 8 | <p>健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療改革の波とともに始まる 21 世紀 2) 新世代の保健・医療の担い手について 3) プライマリーケアの新たな展開 4) 医療におけるケアの視点—こころの通った医療を取り戻す 5) これからの先端医療技術開発 6) 情報化社会と医療 7) 保健・医療の国際化 8) 地域包括医療システムの新しい展開 9) 保健・医療システムと地域住民の役割 10) 地球時代のケアと情報技術（IT）のネットワーク | | |